

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業を併用実施

《担当者名》薄井 明

【概 要】

現代日本の種々の教育問題を「学制」以降の近現代日本教育史の文脈から理解する。現代日本の学校教育制度の国際的な位置について理解する。「教育格差」が再生産されるプロセスを理解する。日本の「ジェンダー格差」と戦後の学校教育の関係について理解する。児童・生徒の「問題行動」の実態、背景と原因、基本的対処法について理解する。

【学習目標】

- ・現代日本の教育課題および教育問題を歴史的・社会的・国際的な視点から考察できるようになる。
- ・個別の具体的な学校教育現象を教育社会学の視点から独力である程度分析できるようになる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	近現代日本の国家・社会と学校教育について(1)	学制と「学事奨励ニ関スル被仰出書」、欧米の教育制度の導入と反動、教育令、教育論争、学校令について理解する	薄井
2	近現代日本の国家・社会と学校教育について(2)	「教育ニ関スル勅語」と御真影・小学校祝日大祭日儀式規程、教科書国定化、大正自由教育について理解する	薄井
3	近現代日本の国家・社会と学校教育について(3)	第四期国定教科書、青年学校令、『国体の本義』、国民学校令について理解する	薄井
4	近現代日本の国家・社会と学校教育について(4)	G H Q占領下での教育の民主化、民主化の逆コースと戦後教育の変容、55年体制と学校教育について理解する	薄井
5	近現代日本の国家・社会と学校教育について(5)	高度成長期の学校教育、高等教育のマス化と大学問題について理解する	薄井
6	現在の日本の学校教育制度と諸外国の学校教育制度の異同について	日本の現在の学校教育制度が欧米諸国や東アジア諸国の学校教育制度とどの点で同じで、どの点で異なるかについて理解する	薄井
7	社会階層と学校教育について(1)	「身分/階級/階層」社会、日本近代と学歴メリトクラシー、戦後の階層移動、学歴と職業の関係について理解する	薄井
8	社会階層と学校教育について(2)	親の学歴と子の基礎学力の関係、イギリス階級社会における言語コードの違い、文化資本と学習ハビトゥスの形成について理解する	薄井
9	ジェンダーと学校教育について(1)	「ジェンダー」概念、ジェンダートラックやジェンダーバイアスと大学専攻分野・職業選択における男女の偏りについて理解する	薄井
10	ジェンダーと学校教育について(2)	戦後の「家庭科」の扱いの変遷、ジェンダー不平等指数、ジェンダーをめぐる「隠れたカリキュラム」について理解する	薄井
11	学校と教育の「病理」について(1)	戦後日本社会の変化と児童生徒の「問題行動」の変遷、「いじめ」の実態と定義、「いじめ」の類型、「いじめ」の理論について理解する	薄井
12	学校と教育の「病理」について(2)	「不登校」の実態と定義、「不登校」のきっかけとその後、「不登校」に対する社会の捉え方の変遷、「不登校」への対処について理解する	薄井
13	学校安全への対応について	危機管理、学校安全の目的・取り組み・管理、安全上の課題について理解する	薄井 薄井富美子（特別講師）
14	学校と地域の連携について	学校と地域の連携の意義、地域との協働の方法、地域に開かれた学校づくりについて事例を通して理解する	薄井 薄井富美子（特別講師）

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
15	総括	現代日本の「教育問題」の歴史社会的な位置づけ	薄井

【評価方法】

期末試験85% + 小課題15%

【備 考】

教科書 ： 特に使用しない。

参考書 ： 山住正己『日本教育小史—近・現代』（岩波新書）、柴田義松・斉藤利彦『近現代教育史』（学文社）、必要な資料は適宜配付する

【学習の準備】

第2回から第5回までは、柴田・斉藤『近現代教育史』の第4章・第5章・第6章の該当箇所を事前に読んでおくこと。該当箇所は事前に指示する。

第6回から第14回までは、事前に渡された参考資料がある場合、それを授業前に読んでおくこと。

【免許法施行規則に定める科目区分等】

「教育の基礎的理解に関する科目」の「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」に該当する。スクールソーシャルワーク教育課程では教育関連科目群の「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目に該当する。